幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局　橋本守行
電話090-7746-8689

第　４５号
令和５年１１月　１日

秋季金沢研修旅行
釜師・宮崎寒雉氏訪問

一〇月二九日、恒例の研修旅行を実施しました。本年は、朝日観音梵鐘の製作者の子孫である第一四代宮崎寒雉氏の工房（金沢市彦三町）をメインに、小松市の安宅関を会員八名が訪れました。

当日は、時折雨が降り、また金沢マラソンが開催されて交通規制が行われる中を一〇時過ぎに到着しました。宮崎宅ではお茶をいただきながら、パワーポイントを利用して、茶釜製作の工程や実際の工房の設備等のご説明を受けました。その主な内容は次のようです。

①もともとの先祖は能登で鋳物業を営んでいたが、天正年間（一五七三～）に金沢に出て、前田家に仕え、後に御用釜師となった。

②朝日観音の梵鐘は、貞享三年（一六八六）に二代寒雉により製作されたもので、以後三代以降の寒雉は梵鐘などは製作せず、茶釜などの製作を続けてきた。

③明治以後においても、宮崎家が代々続いてのも、武具等を製造せず、平和的な茶道具に携わってきたことも関係している。

前列中央寒雉氏

第一四代寒雉氏と工房

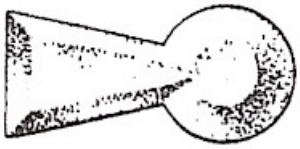
④現在でも、手仕事が中心であるが、燃料は備長炭（高温を発熱し、灰も出ないすぐれものである）から、ガスに転換したが街中での燃焼について、金沢市民の伝統文化に対する理解がある。

⑤茶釜の製作にあたっては、型枠を使用するが、微妙な熱調整とか細工加減によりちがった味わいのあるものができあがる。一個の茶釜が出来上がるまで、約一ヵ月を要する。

午後は、幸若舞曲にもある「勧進帳」の舞台である安宅関を見学しました。安宅住吉神社に参拝し、勧進帳ものがたり館を楽しみました。

朝日観音の梵鐘はかって丸岡町にあった不動院の梵鐘として、住持快秀が願主となり、貞享三年に二代寒雉（かんち）により鋳造された。その後、幸若家にわたり、元禄五年（１６９２）幸若直良により朝日観音に寄進されたものである。

幸若歴史愛好会開催



歴史愛好会九月例会は、二二日会員一〇名の参加を得て開催されました。これまで、傍系からの継体天皇の即位にあたっては、地方有力豪族の多くの支援があって実現したということが、残された古墳規模などを踏まえて、青木講師から説明なされた。

今回の例会では、即位後の権力の維持、治績はどのようなものであったかの講義がなされた。その主なことは次のようである。

①前帝武烈天皇の妹を后に迎え、皇統の正当性を強化した。（越前の豪族からも二人の娘を妃とした）

②これまでのような皇位継承をめぐる争いを避けるため、大兄制度（皇太子制度の前身）を創設した。

③半島との交流、任那の百済への一部割譲と百済を通じての五経博士の受け入れなど海外情報の取得

④近江毛野の新羅攻めに際し、新羅と結んで起こした筑紫国造磐井の反乱を鎮定し、これを機会に中央集権を強化した。

⑤大和朝廷の直轄地・屯倉（みやけ）国造の任命

⑥河内での即位後、数回の遷都を重ね、権力を強化、二〇年後に大和入りを果たした。

一〇月例会は、二七日会員六名の参加を得て開催されました。当初の計画では、朝日山古墳群を現地視察しながら、ご説明を受ける予定でしたが、当日あいにく雨模様であったため、通常通り町図書館会議室での開催となり、古墳様式など詳細な講義を青木講師より講義を受けました。その要旨は次の通りである。

①古墳の設けられた場所は、地域の水田農業の要である用水取水堰の周辺である。　②すなわち、河川が山地部から平野部に流れ出る位置（扇状地）である。この地が付近一帯の用水管理を行うとともに、争いの戦略上の位置となり、地域リーダーの権威を示すことにもなった。

③同じ前方後円墳でもその規模や形状に時代とともに変化がある。前期四世紀崇神王朝、中期五世紀応神王朝、後期六世紀継体王朝に区分される。

④この意味からいえば、経ヶ塚古墳群は朝日山古墳群よりも古いことがわかる。

⑤古墳規模の秩序に関しては、当時の大和朝廷に意向が反映されていると見るべきであろう。

次回一一月二四日の愛好会は町図書館の事情により、越前町生涯学習センターでの開催となり、再度朝日山古墳群の現地調査を予定しています。

幸若アラカルト

剱神社社務所跡発掘調査　令和５年９月～
城戸会員ら参加

剱神社観月の夕べ　９月３０日
幸若舞奉納

白山神社秋季例大祭　　９月２３日
幸若舞奉納

街角美術館　10月11日～10月30日
町生涯学習センターロビー

当面の主な予定

１１月３～４日　　朝日地区総合文化祭（町生涯学習センター）
１１月２４日（金）幸若歴史愛好会（町生涯学習センター集合）
朝日山古墳群現地調査
１２月　２日（土）幸若忘年会（４面参照）

例年行っていた福岡県みやま市の大頭流幸若舞の視察研修は本年度は休止します。

郡上八幡青山家お茶会からご招待

さる７月、郡上青山葉菊会の訪問を受け受けましたが（かわら版４４号）、同会から「青山家伝来架鷹図屏風御披露目茶会」へのご招待が当会にありました。下記により開催されますが、参加ご希望の方は、当会でまとまって訪れる予定ですので橋本会員（090-7746-8689）に１１月５日までにご連絡ください。

記

１　開催日時　令和５年１１月２３日（祝・木）
午前１１時３０分～
２　会　　場　大乗寺（岐阜県郡上市八幡町向山）

新紙芝居DVD版が完成

新しい紙芝居の制作が先ごろ完了しましたが、その後そのDVD版の編集・製作に取り組んできました。今般完成しました。

全体で約二〇分を要しますが、前編・後編の約一〇分に分けての上映も可能です。またビデオ用とパソコン用の二種類があり、使用する機器に応じてご利用ください。

短時間で終了しますので、会議打ち合わせの開始時刻前とか休憩時間にでも、活用をお願いします。

DVDは本会の事務局や朝日コミセンで保管しておりますので貸し出しいたします。

（13／16）

（14／16）

（15／16）

（16／16）

忘年会参加者募集

コロナ禍により中止が続いていましたが、本年は下記要領により開催します。今回は、話題提供者に郷土作家の千葉亮さん（当会会員）をお迎えして、楽しい集まりとします。

記

1　日　時　　１２月２日（土）午後４時
2　会　場　　朝寿殿和室
3　会　費　　１，０００円／人
4　参加申し込み　〆切　11月25日
　　橋本会員090-7746-8689
　　月田会員090-2127-7856まで

千葉 亮 作

萬座寺にやってきた学童集団疎開

ばんけっさんの竜と子どもたち

05 P 22

子どもたちが疎開していたお寺の天井にはお蔵様が描いた竜の絵があった。その竜が……

舞台は江戸時代末期の福井。幕末の政争が激しくなる中、そこは天の使者を運れて集団疎開してきた小学生と地元の小学生の交流がありました。

坂本龍馬や、歌の恋人への詩編を遺言を描いた物語です。

A5判121ページ
定価1,430円(税込)

福井新聞社本社、県内一部書店にて販売中
福井新聞電子版Eサイトでも販売しています。

福井新聞オンラインブックストア　検索

問い合わせ
福井新聞社営業事業局
TEL／0776(57)5180（平日9:30～17:30）

著者／千葉 亮
発行／福井新聞社

福井新聞9月22日記事

七房橋架け替え工事中

勧進帳ものがたり館